

地学と切手



トリスタン・ダ・クーニア
帰島10年記念切手

P. Q.

トリスタンダクーニア (Tristan da Cunha) は南大西洋にある群島で 同名の最大の火山島の名でもある。それは中央大西洋海嶺から480km東に位置しているが 大きくみてこのあたりが最近のホット・スポットのひとつに考えられている。ここから東方アフリカへ向っては Walvis 海嶺が 西の南アメリカへ向っては Rio Grande 海嶺が続いており 大陸移動の考え方からするとこの付近が分裂前の接合を推定する手がかりとなっている。1506年にポルトガル人によって発見され 発見者にちなんで命名された。1810年から定住者が出 1816年イギリスにより領有され 1938年セントヘレナの属領となった。住民は約240人で 主に漁業で生活している。

火山は海拔2,060mで山頂に小火口湖を有する成層火山で海底からの比高は3,660mである。岩石はアルカリ玄武岩—粗面岩系列のもので 30以上の側火山と多数の放射状岩脈を有している。

1961年10月に2か月の前兆地震の後に北端部で噴火が起り 入植地に被害を与えたので 本国政府はひとまず付近のナイチンゲール島へ 次にケープタウンへ さらに本国のサザンプトンの西岸にあるキャルショットへと住民を移した。1962年2月に学士院の調査隊が派遣され 3月に火山活動は終息した。

島民たちは2年間の本国における近代生活を経験したのだが 結局それは自分たちの伝統や習慣とはなじまないと感じたらしい。14票を除いてもとの単純な生活にかえることを望み 63年11月に必要な再建資材を携行して帰島した。もとの入植地は破壊されていたが 新しい港を作りキャルショットと命名した。現在は240人が男女1人ずつの議会を作り 本国は行政官 牧師 医師 看護婦 2人の教師 1人の農業技師を派遣している。

切手は1/2dに島の位置 4dが島の遠望 次の4dと8dは島がセントヘレナの属領となった時の記念切手で上からみた形が画かれている。

帰島10年記念切手は 1973年11月10日に発行された。

4p は住民が英本国に着いて新しい住所となるサザンプトンの港を頼りなさそうに眺めているのをシェルエットでうまく表現している。

5p は噴火調査の状況。

7 1/2p はいよいよ主力がサザンプトンから 4.895トンのボンホーム号乗り込むところ。

12 1/2p は島に到着した喜びが 4pの本国についた時の哀しみと対称して画かれている。

(後半の帰島経緯は北沢芳彦：郵趣1974年4月号による)